

令和5年度第4回運営審議会 質疑・意見について

議題1	K P I（重要業績評価指標）の進捗状況について	委員名 担当課	資料 番号
質疑1	入院単価について、目標値より4,630円上回っていますが、前年度の71,801円よりも71,598円と203円下回っています。前年度に比べて微減です。来年度も維持できますか、来年度の目標値はどのように設定されましたでしょうか。	佐藤委員	資料 1
回答1	入院単価については、手術件数の増加などにより、引き続き、堅調に推移しています。来年度の目標値は、これまでの実績に加え、令和5年度中に取得した施設基準などによる上乗せ分300円を加味し、計画値に800円を上乗せした66,600円で目標値を設定しています。	経営管理 課	
質疑2	外来単価について、目標値より983円下回っています。前年度よりも603円上回っています。前年度に比べて微増です。来年度も維持できますか、来年度の目標値はどのように設定されましたでしょうか。	佐藤委員	
	外来単価が初めて1万8千円を超えましたが要因は何ですか。	伊藤委員	
回答2	外来単価については、紹介・逆紹介の推進により、単価の低い患者が減っている一方、単価の高い患者が増加していることなどから、前年度よりも上昇しています。来年度の目標値は、引き続き紹介・逆紹介を推進していくことに加え、救急医療体制の拡充に伴い、単価の高い救急患者の増加も見込まれることから、令和5年度予算時に計画値を据え置いた経緯を踏まえ、経営計画の令和5年度計画値に、昨年12月に保険適用されたアルツハイマー病の治療薬レカネマブに伴う影響額として300円を上乗せした18,600円で目標値を設定しています。	経営管理 課	
質疑3	手術件数について、目標値より135件上回っています。前年度よりも89件上回っています。来年度も維持できますか、来年度の目標値はどのように設置されましたでしょうか。	佐藤委員	
回答3	令和5年度は、6月末に血管外科医が退職したことから、その領域の手術件数は大幅に減少していますが、これまでコロナ禍で手術を保留にしていた眼科や耳鼻咽喉科の件数が多くなっています。手術件数の目標値については、手術室も限られているため、経営計画においては毎年4,000件を掲げています。令和6年度は、救急医療体制の強化に伴う緊急手術や、地域医療の連携強化継続により手術適用の患者さんの御紹介をいただくことなどで、引き続き、目標値を上回る達成に努めます。	医事課	
質疑4	救急搬送件数、救急応需率について、目標値よりも下回っています。応需率においては11.8も下回っています。昨年12月の厚木市の市議会定例 一般質問において、議員からの質問に対して、事業局長が「救急体制強化を積極的に取り組んでいる」「救急部門の人材確保に取り組む」と応じられていますが（引用「あつぎ市議会だより」）、実際の取組みとしては「大学医局へのお願い」「ホームページでの公募」の2つになりますでしょうか。人材確保の取組み効果はあがっていますか。	佐藤委員	
回答4	救急医の確保については、今年度は、大学医局への依頼、ホームページでの公募のほか、紹介派遣会社を通しての募集を行いました。特に、大学医局については、東海大学医学部附属病院への依頼を強化し、長谷川院長はもとより、山口市長も訪問し、積極的な派遣依頼を行った結果、来月4月から救急科指導医・専門医を1名、常勤職員として派遣いただくことになりました。さらに、非常勤職員として、聖マリアンナ医科大学病院から1名ずつ、週2回の派遣をしていただいていたのですが、来月4月からは、2名ずつ、週2回の派遣をしていただきます。	病院総務 課	
質疑5	救急応需率（小児）について、目標が100に対して、96.8の3.2達成しなかった理由はありますか。その3.2は厚木市立が応需できず、どうなりましたか。	佐藤委員	
回答5	夜間・休日の宿直体制の際は小児科医1名で入院患者・救急患者の対応をしています。主な理由としては、急患対応中に救急要請があったものに対応することができませんでした。当院で応需できなかった患者さんについては、東海大学医学部附属病院など、小児救急を扱う市外の医療機関に搬送されたと考えております。	医事課	

質疑6	<p>期間Ⅱ以内の退院割合について、6月が70.0%、1月が70.3%です。なぜ6月と1月が多いのでしょうか。毎年の傾向でしょうか。1月は外来患者数および退院患者数も多かったのでしょうか。</p>	佐藤委員	資料 1	
回答6	<p>1月までの平均が67.3%ですので、6月や1月が突出して多いとは考えておりません。 令和5年度のように診療報酬改定の2年目はクリニカルパスが院内に浸透されることから、1年目よりも数値はよくなる傾向にあり、標準入院期間Ⅱ以内での退院は、病棟運営や入院期間の適正のために重要事項ですので、引き続き注視してまいります。 【2020年57.5%、2021年度59.8%】【2022年度62.9%、2023年度67.3%※1月まで】 なお、1月の1日当たり外来患者数は678人、1日当たりの入院患者数は256人で、いずれも今年度最高値になっていますが、退院患者数については、今年度平均よりも少ない状況です。</p>	医事課		
質疑7	<p>分娩件数・ハイリスク件数について、5年前の2019年9月、厚労省が公立病院と公的病院の25%超にあたる全国424の病院について「再編統合について特に議論が必要」とする病院名を公表されました。厚木市立においてはリストに入っていませんでした。しかし、「周産期」の診療実績が特に少ない（人口区分によらず下位33.3パーセンタイル値）と示されています。来年度も分娩250件、ハイリスク10件ほどでしょうか。今後もこのぐらいの値でしょうか。</p>	佐藤委員		
回答7	<p>経営計画では、市民の皆様が安心・安全に分娩できる環境を確保するため、令和8年度の分娩件数を300件、ハイリスク分娩率10%を掲げています（令和6年度は270件、8%）。 目標達成に向け、今年度は、産婦人科常勤医師を1名増員しています。 令和4年度は分娩件数308件で、今年度はそれを上回る見込みです。ハイリス分娩件数も現時点で30件を超えており、引き続き、住み慣れた地域で安心して産み・育てられる環境を整えてまいります。</p>	医事課		
議題2	手術支援ロボットによる手術実績について	委員名 担当課		資料 番号
質疑1	<p>半年で39件だと1年換算で80件、1件100,000点とすれば、年間8千万円の収入になりますでしょうか。来年度の件数見込みは何件でしょうか。</p>	佐藤委員		資料 2
	<p>数値目標はありますか。</p>	伊藤委員		
回答1	<p>昨年8月から手術支援ロボットの運用を開始し、導入当初は66件を見込んでいましたが、件数、収入とともに、お見込みのとおり状況となっています。 来年度以降の数値目標は、手術対象（術式）を拡大して行く予定となっておりますので、改めて検討していきますが、今年度以上に多くの患者さんに対して安全で精度の高い医療を提供していきたいと考えています。</p>	医事課		
質疑2	<p>従来の内視鏡術だったものがロボット手術になったことで材料費が増えているかと思います。リーズ代に材料費も含まれているかと思いますが、毎年のランニング費と比べ、8千万円で賄える額でしょうか。</p>	佐藤委員		
回答2	<p>材料費については、症例によって使用する材料が異なることから金額も変わりますが、1月までの症例を参考に算出すると、80件で約1,400万円（税抜）と見込んでおります。</p>	施設用度 課		
質疑3	<p>当初より手術ロボットは収益貢献ではなく、「患者数増」や「研修医を含む医師へのPR」に重みを置いていたかと思いますが、半年たって手術増加や医師集めへの影響・貢献・効果はいかがでしょうか。</p>	佐藤委員		
回答3	<p>手術支援ロボットを運用している外科と泌尿器科については、紹介患者が増加傾向にあります。地域の医療機関を訪問した際には『ロボット手術への期待』や『大学病院ではなく市立病院に紹介できる』などの声をいただいております。 さらに、昨年7月からは、日本泌尿器内視鏡学会認定泌尿器ロボット支援手術プロクターの認定を受けた医師1名が配属されるなど、医師の充実面でも効果が出ています。</p>	医事課 病院総務 課		

議題3	地域医療支援病院承認要件の実績について	委員名 担当課	資料 番号
質疑1	日本医療機能評価機構による評価は「一般病院2」での受審かと思えます。紹介率や逆紹介率に対し、何かコメントはありませんでしたか。「一般病院3」での受審では、「紹介サンキュー、初診時、結果、退院、逆紹介」などの5回の返書を求めています。厚木市立では返書はどのように実施されていますか。これが紹介率や逆紹介率を高める1つの要因でもあります。	佐藤委員	資料 3
回答1	病院機能評価において、地域医療連携に関しては、返書管理（仕組みや返書率）や医療機関訪問等について質問があり、受審日当日の講評では適切である旨の評価をいただきました。 当院の紹介元医療機関への返書については、第一報として来院報告とともに、可能な限り診断や検査及び手術の予定等を記載し返信をしています。その後、検査結果や治療方針が決まった場合には第二報を作成し改めて返信をしています。 また、毎週、紹介元医療機関への返書の有無を確認し、返信が無い場合は医師への督促を行っており、引き続き、地域の医療機関との更なる医療連携を推進してまいります。	医事課	
質疑2	逆紹介患者数が6月と12月が多い背景は何がありますか。毎年の傾向でしょうか	佐藤委員	
質疑2	逆紹介率で12月が多いのはどうしてですか。	伊藤委員	
回答2	6月及び12月の逆紹介率については、今年度の目標値である82.5%を10%以上も上回る結果となりました。例年の傾向ではありませんが、6月は逆紹介患者数が増加したこと、12月は、逆紹介患者数は平均値より少し高い程度ですが、率を算定する上で分母となる初診患者数が減少したことが数字として表れています。 紹介率・逆紹介率については、紹介及び逆紹介患者数のみならず、紹介状を持った初診患者を増やし、さらに救急搬送患者を増やすことが紹介率の向上につながることから、地域の医療機関との更なる連携、救急受入状況の分析や受入体制を強化することで、率の向上を図ってまいります。	医事課	
質疑3	紹介率が低い傾向にある「精神科」「整形外科」「皮膚科」「小児科（月によって変動あり）」「産婦人科（月によって変動あり）」は紹介率を高めようと努力や気持ちはありますか。それともこの診療科はこの状態維持でしょうか。	佐藤委員	資料 4
回答3	非紹介制の診療科のほか、医師の配置等の診療体制、疾患や診療の特性等により、診療科によっては率が高くありませんが、当院は地域医療支援病院及び紹介受診重点医療機関として指定されていますので、ホームページや院内掲示、広報あつぎ等を活用し、当院の役割や外来医療の機能分化に関する周知を行うなど、引き続き、紹介率及び逆紹介率の向上に取り組んでまいります。	医事課	
質疑4	病院ホームページや厚木市立病院だよりでPRしている「関節リウマチ」の宣言効果はありますか。ホームページでうたっている「各種専門外来（センター含）」は専門外来としても集患効果はありますか。これらのPRで紹介状無の初診患者の増加ではなく、紹介患者数を増やすことにつながっていますか。	佐藤委員	
回答4	今回（2024年1月号）の病院だよりでは、「関節リウマチ」を取り上げていますが、これまで市民や地域の医療機関に対して、市立病院のトピックス（新規の専門外来開設など）や適切な医療機関のかかり方等をホームページや病院だよりを通して周知しております。 各種専門外来についても原則としては、地域の医療機関から紹介状をお持ちいただくこととしており、地域医療機関へ直接PRを行うなどにより、一部の専門外来では紹介患者の増加につながっています。	病院総務課 医事課	

議題4	その他について	委員名 担当課	資料 番号
質疑1	昨年末の厚木市の市議会において、「歳入はかわらず、歳出が増加し、赤字決算となる。キャッシュベースでは増加見込みのため、当面、日々の決済などで大きな影響は生じない見込み」と説明されています（引用「あつぎ市議会だより」）。これはどういった意味でしょうか。	佐藤委員	
回答1	病院事業会計補正予算第1号において、国の人事院勧告に準じて支出である給与費を増額しましたが、人件費の上昇分を診療報酬に転嫁できないため、令和5年度予算の収支が赤字に転じました。単年度で見れば赤字ですが、キャッシュ・フロー計算書においては、未収金の減少等により資金の増加が見込まれていることから、日々の決済において資金不足は生じないため、大きな影響は生じないとの説明をしたものです。	経営管理 課	
質疑2	収入の要となる医事請求業務委託が現行業者になり、2年経過するかと思います。長年同じ業者でしたが、別の業者に変わった覚えがあります。来年度中に任期更新でしょうか。この2年の成果や効果などはいかがだったでしょうか。	佐藤委員	
回答2	当院では診療報酬請求業務を含め、受付や会計業務等の医療事務を専門事業者へ委託しています。契約については、令和3年12月から3年契約となっており、今年の11月までが現契約の委託期間となっております。待ち時間対策やフロアコンシェルジュの配置等の患者サービスの向上、適正な請求と増収に向けた取組等の診療報酬請求業務の精度向上等、一定の成果があるものと認識しています。	医事課	-
質疑3	新型コロナが5類になり病院の診療体制などの変化を教えてください。	伊藤委員	
回答3	当院は、第二種感染症指定医療機関及び神奈川モデル認定医療機関の重点医療機関として、専用病床を確保するなど病床確保フェーズに応じて医療体制を整備してきました。5類移行後は感染対策を継続しながら、更なる救急体制の強化、地域の医療機関との連携強化のほか、先月からは休止していたHCU病棟を再開させており、引き続き、急性期病院としての役割を果たしてまいります。	医事課	
質疑4	病院機能評価にむけての進捗はどうか。	伊藤委員	
回答4	資料8のとおり	病院総務 課	